

個別施策管理シート 対象事業年度 平成 24 年度

政策	3 夢のふくらむ港	施策推進 責任者	企画調整室長 港営部長
基本施策	04 うるおいと魅力のある港湾空間の形成		
個別施策	12 快適な港湾空間を形成する		

1. PLAN(目的・内容)

目的	サービスの対象者(誰のために)	来港者、就業者
	サービスの対象物(何を)	緑地、水辺空間、就業空間及び港湾景観
	意図(どういう状態にしたいのか)	快適に感じられる場となる
内容	これまで名古屋港では人々に親しまれる施設を各種整備してきましたが、さらに水辺に訪れる人々に安らぎや潤いを感じることができる緑地や遊歩道、都心部と港をつなぐ海上ネットワークの充実、景観資源を活かした魅力ある視点場の確保などによって、港らしさが感じられるより快適な空間を提供していきます。	
目標	臨港緑地利用者の満足度向上(利用者の増加)を図ります。	

成果指標	年度 実績等	H20	H21	H22	H23	H24	目標	指標の説明(式)	
							H24		
緑地(ガーデンふ頭臨港緑園、富浜緑地、中川運河緑地、潮見ふ頭緑地)へ訪問した事のある人の割合	実績	%	23.1	-	34.3	33.3	26.9	前年 比増	・環境デーナゴヤ、メッセナゴヤ等の環境イベントで実施したアンケート結果です。 ・実績値は、4か所の緑地への訪問割合を平均したものです。 ・H21は未実施です。
	達成率	%	113.8	-	148.5	97.1	80.9		
港湾福利厚生施設利用者(福祉センター、岸壁休憩所)	実績	万人	117	99	104	100	92	140	
	達成率	%	83.6	70.7	74.3	71.4	65.7		

2. DO(個別施策を構成する各事務事業の取組内容と今後の方向性)

重点化	担当課名	事務事業名(コード)	事務事業の概要	主な活動・成果指標	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値(年度)	平成24年度実施事業に基づく評価結果				
					実績	実績	実績見込み		平成24年度 末までの 状況 ※1	平成25年度以降の取組の方向性 事務事業 ※2	成果 ※3	コスト ※4	備考(判断の理由・目標年次の変更等)
					上段: 指標達成状況								
○	(企画調整室)計画担当	中川運河再生計画の策定(港湾計画の策定)(個12事01)	都心に近接したロケーションや周辺の開発動向を鑑み、利用形態の見直しを図り、水域の利活用に係る幅広い考え方や、必要となる施設などについて関係機関等と検討・調整を行います。	策定進捗率(%)	34.0	38.0	50.0	100 累計 (H25)	やや遅れ	継続	↗	➡	環境変化に対応した港湾のマスタープランである港湾計画の改訂に向けて着実に取り組むため。
					9,329	10,344	2,440						
	(企画調整室)事業担当	中川運河緑地(堀止地区)整備事業【本掲】(個12事02)	地域環境の向上を図るため、ささしまライブ24と連携を図りながら中川運河(堀止地区)の緑地を整備します。規模: 1.1ha【再掲】個17事03	事業進捗率(%)	6.4	11.9	34.0	100 累計 (H28)	順調	継続	➡	➡	当該緑地は、周辺開発である「ささしまライブ24」の進展に合わせて事業進捗を図る必要があるため。
					38,663	58,733	191,809						
	(企画調整室)事業担当	金城ふ頭中央緑地整備の事業化(個12事03)	国土交通省と予算に関する調整を行います。	事業採択(回)				1 (H20)	完了				
	(港営部)港営課	港湾福利厚生施設の管理(個12事04)	港湾福利厚生施設となる港湾労働者福祉センター、岸壁休憩所は本組合が所有していますが、運営は(公財)名古屋港湾福利厚生協会に委託しています。運営方法、施設の修繕、必要棟数等については、同協会及び関係者と調整し、快適な港湾労働環境の形成を図ります。	港湾福利厚生施設の利用者数(万人)	104	100	92	140 (継続)	順調	継続	➡	➡	港湾労働者の良好な労働環境の確保は港湾管理者の責務であるため。
	(企画調整室)計画担当	名古屋港景観基本計画の見直し(個12事05)	名古屋港景観基本計画を策定してから、約10年が経過したため、検討委員会を組織し、同計画の点検・検証を行います。	名古屋港景観基本計画第2版の策定(%)				100 累計 (H20)	完了				
	(企画調整室)事業担当	金城ふ頭中央緑地整備事業【本掲】(個12事10)	地域環境の向上を図るため、金城ふ頭中央緑地の整備を行います。規模: 1.1ha【再掲】個17事10	事業進捗率(累計)(%)	32.5	100		100 累計 (H23)	完了				
	(企画調整室)環境担当	名古屋港景観基本計画の推進(個12事11)	関係行政機関や事業者と連携して、景観アドバイザー制度の活用などにより、各種建築計画等と名古屋港景観基本計画及び名古屋港カラー計画との整合性を図り、魅力ある港湾景観の形成を推進します。	景観アドバイザー制度の相談件数(件)	8	11	11	15 (継続)	順調	継続	➡	➡	カラー計画に基づく審査案件の実現に努力しつつ、コスト維持に努めていくため。
	(企画調整室)環境担当	名古屋港跳上橋の保存・活用方法の検討(個12事12)	名古屋港景観基本計画において歴史資源として位置づけられている、名古屋港跳上橋の保存・活用について検討するものです。	保存・活用方法作成工程の進捗率(%)	50.0	67.0	100	100 累計 (H24)	順調	完了			跳上橋の保存・活用の検討は完了しました。
				施策コスト(事業費合計)	83,155	145,441	206,681						

注) 事業費は総事業費から本組合負担分を抽出して計上しています。
注) 目標値欄の「(継続)」は完了年度を定めず行う事業です。この場合の目標値及び目標年度は、原則として24年度の間目標として設定しています。

4. ACTION(個別施策全体の今後の取組の方向性)

平成25年度以降の取組の方向性		平成25年度取組の方向性の判断の理由(本組合財政収支への影響の考察を含む※5)	
区分	成果※3	コスト※4	<ul style="list-style-type: none"> 人々に親しまれる施設の整備など成果を拡大としますが、コストについては、着実に取り組むため、維持とします。
拡大維持縮小	↗	➡	
今後の展開方向(新規事業の創出、事務事業の見直し等)			
<ul style="list-style-type: none"> 港らしさが感じられる快適な港湾空間の形成に向けて、訪れる人々が満足できる、より良い施設整備を進めていきます。 名古屋市とともに中川運河再生計画を策定しましたので、25年度目標の港湾計画に反映していきます。 中川運河再生計画に基づき、さらに緑地や護岸などのハード整備や水質改善に必要な取り組みを進めます。 港湾福利厚生施設の管理については、(公財)名古屋港湾福利厚生協会と連携を図り、必要に応じて施設の運営の改善や改修等に取り組んでいきます。 次期政策体系(26年度～)において、本施策及び事務事業構成の見直しの検討を行っていきます。 			

3. CHECK(個別施策全体における取組状況と課題)

前年度の評価結果を踏まえて取り組んだ内容と現状における課題認識	
<ul style="list-style-type: none"> 社会情勢の変化や新たな県民・市民のニーズに応えるため、名古屋市とともに中川運河再生計画を24年度に策定しましたが、内容を港湾計画に反映していく必要があります。港湾計画については、引き続き25年度の改定を目的に着実に取り組んでいく必要があります。 中川運河については、緑地など一部の事業は実施していますが、今後段階を追って、事業化していく必要があります。 貴重な景観資源である名古屋港跳上橋を保存するため、実施設計を行いました。(個別12事12完了)25年度からは跳上橋の保存工事を行う事務事業を新たに立ち上げ、2ヶ年で工事を行っていきます。 政策体系として評価を行うことが適さない日常業務については、次期政策体系の策定において見直しが必要です。 	構成事務事業の適正性(構成される事務事業で個別施策の目標を達成できているかどうか。できていない場合は改善策を記入)
<ul style="list-style-type: none"> 事務事業の構成内容は概ね適正ですが、跳上橋の事務事業を追加する必要があります。 	

個別施策12

